

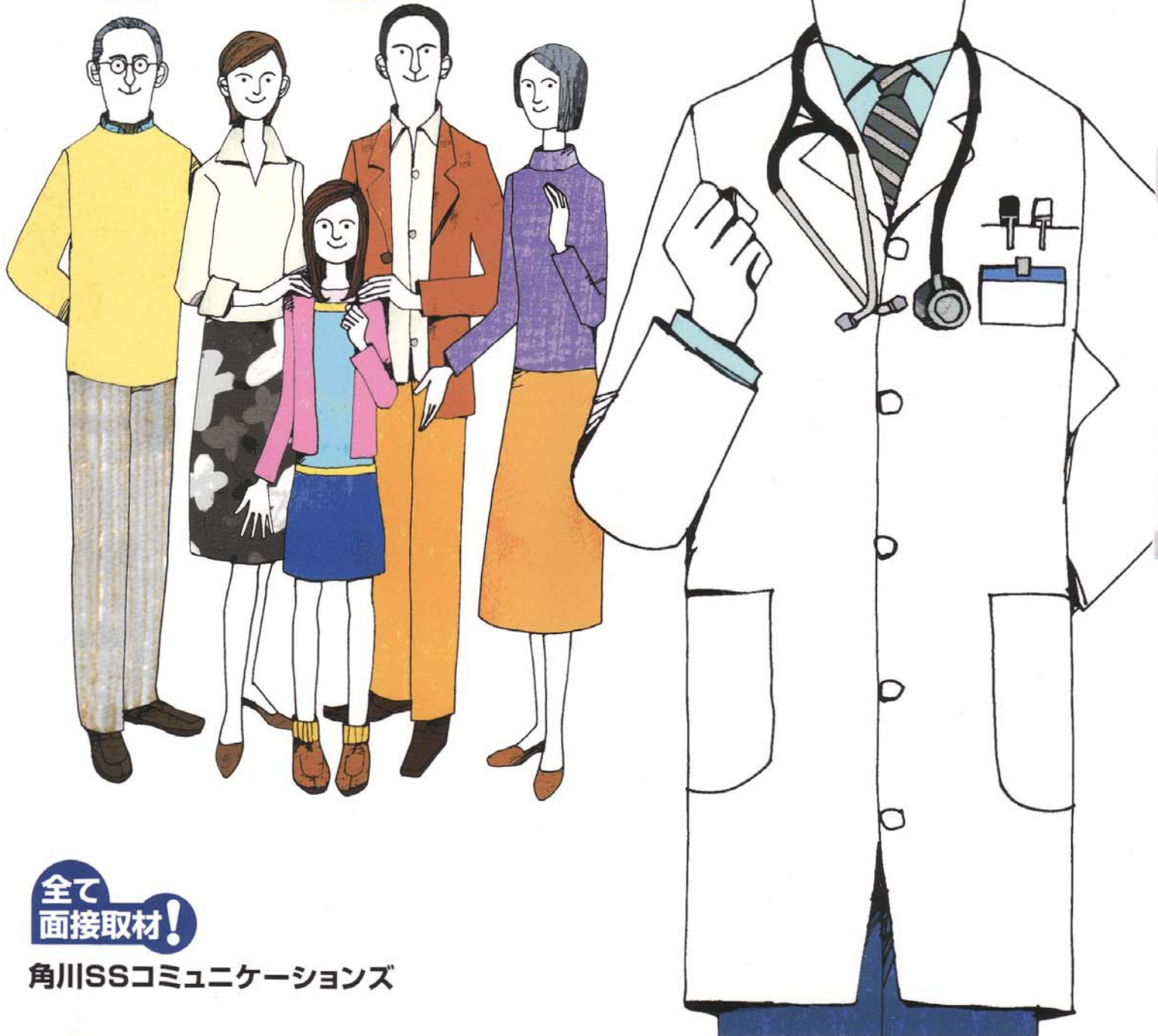
最新版 迷ったときの

名医は  
名医を知る

# 医者選び

## 東京

医療評価ガイド取材班  
<http://www.e-ishaerabi.com>



全て  
面接取材!

角川SSコミュニケーションズ





藤井隆広院長

医療法人隆風会 藤井隆広クリニック

## 藤井 隆広 院長

東京都中央区銀座4-13-11 銀座M&Sビル7F  
TEL：03-3544-6266  
最寄りの駅／東京メトロ日比谷線・都営浅草線東銀座駅、徒歩1分  
http://www.tf-clinic  
<スタッフ>看護師5人・事務員6人

### Profile

ふじい・たかひろ。1957年福井県生まれ。金沢医科大学卒。同大病理学教室助手、秋田赤十字病院、国立がんセンター東病院、95年英国リーズ大学病院で内視鏡指導。98年国立がんセンター中央病院内視鏡部消化器科医長を経て、2003年同クリニック開業。

### 実績・成績

上部内視鏡検査数1131人、下部内視鏡検査数1415人(2007年)。がん発見数：胃がん(早期4例・進行2例)、大腸がん(早期50例・進行7例)(07年)。

## 特色

### 苦痛のない内視鏡検査と拡大内視鏡治療に定評

藤井院長は、苦痛のない胃・大腸内視鏡検査を行う。欧米人には少ないと言われた陥凹型大腸がんを英国リーズ病院で発見、大腸がんの発生率に人種差がないことを証明するなど、診断力の高さに定評がある。個人クリニックながら拡大内視鏡を駆使し、ポリープの種類や深達度を的確に判定。検査時に大腸早期がんの内視鏡治療を行い、日帰り手術も可能。

## 治療

### 安心で安全な日帰り手術を実践

同院長は、大腸の病変を100倍まで拡大して観察できる拡大内視鏡を用い、ポリープの種類を瞬時に選別・診断する。

がん腫の場合、内視鏡治療の可能な早期がんか、外科的手術を要する早期または進行がんなのかをほぼ9割で判定できるため、1回の内視鏡検査で診断から治療までを終えることができる。

内視鏡治療は、術後の出血や腸管穿孔の合併症に対し、入院が必要とされるのが一般的だが、同院は、合併症に対してもさまざまな工夫や対策を講じ、安心・安全に日帰り手術が受けられる。

院長自らが、合併症時に対応できる内視鏡治療器具を考案、2007年には米国や欧州の国際学会で発表し、国内外で高い評価を受けている。

胃の検査も極細5mmの内視鏡を用い、鎮痛剤との併用で、常に患者側にとって楽な検査を

目指す。

同院長は、国立がんセンターなど多施設と共に、JPS (Japan Polyp Study) という腺腫性大腸ポリープに関する臨床試験を中心となって行う。

同試験は、腸内をクリーンコロンの状態にした後、どのくらいの間隔で大腸内視鏡検査を行えば大腸がんの発生予防に効果的なのかを明らかにする。今後の大腸がん抑制に大きな意義を持つ臨床試験であり、院長自身の勉学の場でもある。

同院長は、近年急増する大腸がんを初期の段階で発見し、死亡率を少しでも抑制したいと考える。特に表面型や陥凹型など発見困難な大腸がんは、10mm以下でも早い段階で粘膜下層へ浸潤するケースも多いため、早期発見・治療のため日夜努力する。

### 藤井院長からのアドバイス

大腸がんは年々急増し、女性ではがん死亡率のトップ。便潜血テストが陰性であっても、大腸早期がんの50%、進行がんの20%は見逃されているので、安心できません。テストが陰性で便秘などの症状がなくても、40歳を過ぎたら、男女を問わず、大腸内視鏡検査を一度受けることをお勧めします。決して怖いものではなく、高いメリットのある検査です。

● 外来診療日 ▶ 月・火・木・金曜 (10:00~12:00、15:00~16:30) 土曜は検査のみ

### 名医の条件

内視鏡医師は精度の高い技術と正確な診断能力を兼ね備えるべき。診断・治療を一体化するよう精進し、他人の意見に耳を傾けることが大切。治療後の合併症には徹底したアフターケアを施し、患者さんを安心させることができる医師(藤井院長)。